

B-29 繊維に対するカビの影響について(初報) 加による染布及び染料の退色
京都府大短大 佐藤 睦子

目的 カビによる染布の変退色の原因は、カビの生産色素による汚染の他に、有機酸などの分泌物質や、酵素的作用の一つである還元による脱色が考えられる。このうち還元作用によるものについて明らかにする目的で実験した。

方法・① 2種の直接、酸性染料染色布のJIS規格「カビ抵抗性試験方法」に指定されたもののうち、*Aspergillus niger* ATCC 6215 (AN), *Penicillium citrinum* ATCC 9849 (PC) を、JISのモヒゴキ接種し洗淨したもの、また② ①を含む4種の直接、酸性染料染色布および、これら4種の染料に塩基性染料を加えた5種の染料液の二つの基質に、AN, PC, 更に *Fusarium Moniliforme* USDA 10041 (FM) などの沙紙培(溶)養抽出酵素液を、それぞれ嫌氣的条件下で作用させたものについて、回折格子形光電比色計を用い、前者①についてはピリジンによる培養布抽出染料溶液の比色、後者②では、酵素処理直後、1時間、2時間後における作用溶液の比色結果から、それらの作用を検討した。

結果 生カビ培養布の抽出染料の比色結果では、還元作用は明らかに出来なかったが、嫌氣的に抽出酵素液を作用させた染料溶液では、その吸光度変化から還元作用を推測出来るデータを得、更に、染布の抽出酵素浸出溶液の比色検討から、それらを裏付ける結果を得た。それらの場合の脱色機構を考慮、また、用いた染料の分子構造と抗菌性、各カビの作用の特性についての一端を検討した。